

3

動植物に係る調査結果

3-1

陸生動物

3-1-1 動物相（鳥類相）

最終処分場が供用を開始したことを受け、平成 25 年度より最終処分場区域周辺において動物相（鳥類相）の調査を実施しています。今年度は 5 年目の調査であることから、評価書の事後調査計画に示したとおり、春季（平成 29 年 5 月 29 日）に実施しました。

調査の結果、キジ、キジバト、アオサギ等 7 目 16 科 19 種 91 個体を確認しました。

今回確認した種を、過年度の春季に実施した結果と比較すると、確認種数では平成 25 年度の 17 種、平成 26 年度の 21 種、平成 27 年度の 25 種に対して、概ね同程度の結果であり、里山環境を反映した種構成に大きな違いは見られませんでした。また、個体数においては平成 25 年度の 109 個体、平成 26 年度の 128 個体、平成 27 年度の 132 個体に対してはやや少ない個体数の確認でした。

確認種数及び個体数の減少については、過年度確認されたトビやエナガ、セキレイ類等が確認されていないことによるものです。

3-1-2 特筆すべき動物

特筆すべき動物の調査はいずれも最終処分場区域内及びその周辺で実施し、結果は表 3-1 に示したとおりです。

表 3-1(1) 特筆すべき動物の調査対象種、調査時期及び調査結果

分類	種名	調査時期	調査結果
鳥類	チュウサギ	平成 29 年 5 月 29 日	確認できませんでした
	オオタカ	平成 29 年 4 月 18 日 平成 30 年 1 月 23 日	3 月調査時に小山処分場西方上空において雌雄ペアで飛翔する 2 個体を確認しました
	ハイタカ	平成 30 年 2 月 23 日 平成 30 年 3 月 13 日	3 月調査時に小山処分場西方上空においてオオタカの雌雄ペアのうち雌につっかかる 1 個体を確認しました
	フクロウ	平成 29 年 4 月 19 日 平成 30 年 1 月 24 日 平成 30 年 2 月 19 日 平成 30 年 3 月 12 日	確認できませんでした
	サンショウクイ	平成 29 年 5 月 29 日	最終処分場南側残存緑地から北側残存緑地へ飛翔する 1 個体を確認しました
	コチドリ		最終処分場内及び南側残存緑地で 6 個体、鳥類相調査時に最終処分場内で 1 個体、計 7 個体を確認しました

表 3-1(2) 特筆すべき動物の調査対象種、調査時期及び調査結果

分類	種名	調査時期	調査結果
鳥類	キビタキ	平成 29 年 5 月 29 日	南側の最終処分場外の樹林で 1 個体、鳥類相調査時に東側の最終処分場外の樹林で 1 個体、計 2 個体を確認しました
	タゲリ	平成 30 年 1 月 23 日	確認できませんでした
両生類	アカハライモリ	平成 29 年 7 月 3 日	確認できませんでした
爬虫類	ニホンイシガメ	平成 29 年 7 月 4 日	
昆虫類	ムカシヤンマ	平成 29 年 5 月 29 日	最終処分場事務所付近で成虫 1 個体、最終処分場南側の残置森林内で成虫 2 個体、成虫計 3 個体を確認しました
	オオクワガタ	平成 29 年 7 月 3 日 平成 29 年 7 月 4 日	確認できませんでした
	ミカドガガンボ	平成 29 年 5 月 29 日 平成 29 年 7 月 3 日 平成 29 年 7 月 4 日	
	アオメアブ	平成 29 年 7 月 3 日 平成 29 年 7 月 4 日	最終処分場事務所周辺で 4 個体、小山処分場跡で 3 個体、最終処分場東側の造成緑地で 1 個体、計 8 個体を確認しました
クモ類	コガネグモ	平成 29 年 5 月 29 日 平成 29 年 7 月 3 日	確認できませんでした
	アシナガカニグモ	平成 29 年 7 月 4 日	確認できませんでした

3-2	水生生物
------------	-------------

3-2-1 特筆すべき水生生物

特筆すべき水生生物の調査は最終処分場区域内及びその周辺の 7 地点で実施し、結果は表 3-2 に示したとおりです。

表 3-2 特筆すべき水生生物の調査対象種、調査時期及び調査結果

種名	調査時期	調査結果
ヒラマキミズマイマイ	平成 29 年 8 月 23 日	確認できませんでした
ヒラマキガイモドキ		1 ヶ所で生息を確認しました
ナガオカモノアラガイ		2 ヶ所で生息を確認しました
マシジミ		7 ヶ所で生息を確認しました
ドブシジミ		2 ヶ所で生息を確認しました
コオイムシ		確認できませんでした

3-2-2 水生生物（淡水魚類）

最終処分場区域内を流れる天白川（P. 1、P. 2、P. 3 の調査地点）において淡水魚類調査を平成 29 年 5 月 17 日（春季）、8 月 2 日（夏季）、11 月 21 日（秋季）、平成 30 年 2 月 7 日に実施し、結果は表 3-3 に示したとおりです。

今回の調査結果を昨年度（表 3-4 参照）の結果と比較すると、昨年度確認されなかったタモロコが今回の調査では確認され、出現種数は 5 種と昨年度（4 種）よりやや多い結果となりました。

なお、今年度の調査では、夏季の P. 3 でのカゴ網調査及びセルビン調査において、例年よりも多い個体数が確認されました。夏季の P. 3 では、水田への引水のために設けられた堰の下流で調査を実施しており、堰のない時期よりも水量が減少していました。そのため、魚道が平常時より狭まっており、仕掛けに個体が掛かりやすくなっていたことが、今年度の結果に影響した可能性が考えられます。

表 3-3(1) 淡水魚類調査結果（平成 29 年度）

調査方法	種 名	春季(H29. 5. 17)			夏季(H29. 8. 2)			
		調査地点						
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3	
カゴ網	カワムツ	捕獲なし				4	捕獲なし	15
	オイカワ				1			
	種 数				1	1		1
	個体数				1	4		15
セルビン	オイカワ	捕獲なし				1	84	
	カワヨシノボリ				1			
	種 数				1	1	1	
	個体数				1	1	84	
タモ網	カワムツ	○			○	○		
	オイカワ			○				
	タモロコ						○	
	カワヨシノボリ		○	○	○	○	○	
	メダカ			○				
	種 数	1	1	3	2	2	2	

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-3(2) 淡水魚類調査結果（平成 29 年度）

調査方法	種 名	秋季(H29. 11. 21)			冬季(H30. 2. 7)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			捕獲なし		
	オイカワ						
	種 数						
	個体数						
セルビン	オイカワ	捕獲なし			捕獲なし		
	カワヨシノボリ						
	種 数						
	個体数						
タモ網	カワムツ	○		○	○		○
	オイカワ						
	タモロコ			○			
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	メダカ						
	種 数	2	1	3	2	1	2

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-4(1) 淡水魚類調査結果（参考：平成 28 年度）

調査方法	種 名	春季 (H28. 5. 23)			夏季 (H28. 8. 3)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし				4	捕獲なし
	オイカワ		1				
	カワヨシノボリ		1	1			
	メダカ			1			
	種 数		2	2	1		
	個体数		2	2	4		
セルビン	オイカワ	捕獲なし	1	2		1	1
	カワヨシノボリ			4	1		
	種 数		1	2	1	1	1
	個体数		1	6	1	1	1
タモ網	カワムツ		○				○
	オイカワ	○		○			○
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	2	2	2	1	1	3

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-4(2) 淡水魚類調査結果（参考：平成 28 年度）

調査方法	種 名	秋季 (H28. 11. 2)			冬季 (H29. 2. 1)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	オイカワ	5	捕獲なし		捕獲なし		13
	カワヨシノボリ						1
	種 数	1					2
	個体数	5					14
セルビン	オイカワ	捕獲なし	4		捕獲なし		1
	カワヨシノボリ			4			
	種 数		1	1			1
	個体数		4	4			1
タモ網	オイカワ		○	○	○		○
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	メダカ			○			
	種 数	1	2	3	2	1	2

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした

3-3-1 植物相

最終処分場の供用に伴い、最終処分場区域内に回復緑地として整備した緑地の状況及び残存緑地とした区域の状況を把握するため、平成 29 年 9 月 8 日に調査を実施しました。

本調査は施設供用後より事業の実施期間中、継続して監視するもので、今回は 5 年目の調査になります。

その結果、回復緑地については、昨年度と概ね同様の傾向であり、生育状況の悪い個体がやや多くみられましたが、一部には改善や順調な生育もみられました。一方、残存緑地については、各植物種は概ね良好な生育状況でしたが、比較的大径のコナラにはカシノナガキクイムシの食害に起因するとみられるナラ枯れがみられました。その他の状況としては、林縁部にみられる多様な先駆樹や、その下層に生育するアラカシ等の稚樹に大きな変化はなく、緑地の回復傾向がみられました。

調査は次年度以降も継続し、植物相の変化を監視していくこととします。

3-3-2 特筆すべき植物

平成 26 年 4 月に最終処分場区域内の調整池へ本移植を行ったミズワラビ・ミズマツバ・シソクサの 3 種について、これらの植物の発生時期である秋季に、移植 3 年後の活着確認を行いました。

その結果、いずれの種も生育の確認はできませんでした。

表 3-5 特筆すべき植物の調査結果

種名	調査時期	調査内容	調査結果
ミズワラビ ミズマツバ シソクサ	平成 29 年 10 月 17 日	移植 3 年後 活着確認	いずれの種も生育の確認はできませんでした